



5
May. 2018
No. 754

満開の桜の下、
連覇を目指し、
鬼気迫る人馬一体。



桜満開、 希望満タンの新入学—

涌谷町内の幼稚園・こども園・保育園・小中学校において、
入学式が執り行われ、子どもたちが新たな世界へと
羽ばたいていきました。



例年よりも駆け足で訪れた今年の春。涌谷町のシンボルの一つである桜が美しく咲き誇る中、保護者に見守られながら、涌谷町の宝の子どもたちが、入園式・入学式に臨みました。

元気にお返事できました

この春に、町内の幼稚園・こども園・保育園で新入園を迎えた子どもたちは、総勢131人。

幼保一元化施設のさくらんぼこども園では、0歳児から4歳児までの52人が新入園。0歳児の子どもも、保護者に抱っこされながら入場し、会場となったアリーナは、元気な泣き声や笑い声で満ちていました。

ののだけ幼稚園の入園式でも、16人の新入園児が元気いっぱい臨みました。

どちらの園でも、年長さんからの首飾りのプレゼントによって緊張がほぐされ、大きな声で元気いっぱい点呼に対して返事をしていました。

また、園長先生からの楽しい園生活の紹介や先生方からの手遊びでのお出迎いで、期待に胸を膨らませていました。

ワクワクの一年生

3月に幼稚園・こども園・保育園を巣立ち、町立の小学校で新入学を迎えた子どもたちは、総勢104人。

保護者とともに、期待と不安で胸をいっばいにしながら初めての登校。

しかし、入学式が始まると同じ学び舎で過ごす仲間との出会いによって不安は取り除かれ、希望に満ちあふれた表情で入場してまいりました。

その元気の勢いそのままに、新入学児点呼では、大きな声で立派に返事をしていました。笹岳白山小学校では、卒業式と同様に、全校児童が出席したアットホームな入学式に。1年先輩の2年生児童の手づくりの紙芝居によって、笹岳白山小学校の一年間を楽しく紹介し、入学を歓迎しました。

中学生としての自覚あふれる

新生涌谷中学校となつてから4回目の入学式。新入学生たちは、義務教育課程最後の3年間に對する希望と覚悟を感じさせる凛とした引き締まった表情で入場し、入学式に臨みました。



【写真解説】

- ①ピシッと手を挙げて立派に返事をする新入園児たち。お父さん・お母さんの不安も吹き飛びます。
- ②小学校生活が楽しみでしょうがないという希望にあふれた表情で臨む新入学児童たち。
- ③小学生から一皮むけた大人の表情で臨む新入学生たち。

いつもより駆け足でやってきた今年の春。
 例年よりも早く4月5日に開花した城山公園の桜。
 それでも、桜まつりの最高潮「東北靉馬競技大会」まで持った満開。
 皆さんは、どのように今年の春を楽しみましたか？



**春の嵐が吹き荒れた
 第68回東北靉馬競技大会**

4月15日(日)に、北海道・東北各地から力自慢の靉馬を率いて馬主が城山公園の河川敷に集結しました。

前日から降り続いた雨は、当日の8時頃には上がり、心配された桜も、散ることなく満開を維持。馬場も良馬場となり、絶好の靉馬日和となりました。

レースには、33頭が出走し、雨上がりに来場した観衆を力強い人馬一体の勇姿で魅了しました。約1トンの重量を引く注目の特A級では、有限会社大藤工業が所有するファーストスター号が、第67回大会からの連覇を達成。鬼気迫る勢いで会場を沸かせました。

競技大会終了後には、岩手県から参加した馬主さんの心遣いによってチャグチャグ馬つこに着飾った靉馬がコースに登場。史料館・太鼓堂を背景にした撮影会が、開かれました。

昼頃から暴風が吹き荒れましたが、対岸のフリーマーケットや互市にも終始大勢の花見客が訪れ、涌谷町の桜まつりの最高潮「東北靉馬競技大会」を楽しんでいました。



今年も、桜とともに。



インスタ映える夜桜に バージョンアップ

4月9日(月)から、城山公園周辺で、夜桜ライトアップが始まり、涌谷大橋から城山公園一帯の桜並木が宵やみに照らされました。

城山公園野外ステージでは、遠田商工会青年部の皆さんによる涌谷町黄金大使の大和優雅映画監督の最新作「スター☆☆」と涌谷町のPR映像を上映。併せてステージ前には、竹で作られた灯ろうが置かれ、さまざまな模様が夜の城山公園に浮かび上がっていました。

また、ひさご池では、涌谷電友会が枝垂桜のライトアップを新たに設置。朱色の橋とともに池に映る枝垂桜に、老若男女問わず多くの夜桜見物客が、カメラやスマートフォンのシャッターを切っていました。

城山公園に舞う芸能の華

4月23日(日)には、城山公園野外ステージにおいて、芸能ショーが開催され、町内はもとより、友好交流の町・山形県大石田町からの最上川芭蕉連が今年も参加。14団体によって、葉桜の城山公園を芸能の華で満開にしました。





涌谷町町民医療福祉センターに新センター長 大友和夫氏がセンター長に就任

涌谷町町民医療福祉センターの青沼孝徳センター長の退職に伴い、4月1日付で大友和夫氏が新たにセンター長に任命されました。

大友氏は就任にあたり、「皆さんが、住み慣れた地域で、それぞれのスタイルに合った生活を、より良くおくれるようになってほしいとの思いで、お引き受けしました。少子高齢化は、涌谷町でも切実な問題となっております。その解決のために、全国に先がけて30年ほど前、地域包括ケアの拠点として、この施設は造られました。しかし、取り巻く環境の変化に伴い、新たな考え方で、地域包括ケアシステムを構築する必要に迫られております。地域医療の分野で伝統ある涌谷町の考え方を踏まえ、さらに充実したシステムを構築することが、私に課せられた責務だと考えております。微力ですが、生き甲斐を持って暮らせる町づくりに精一杯努めたいと思います」と抱負を述べました。

また、青沼孝徳氏は、昭和62年4月に病院開設準備室に着任後、平成8年5月1日に所長（現センター長）に就任し、平成30年3月31日までの約30年間にわたり、保健・医療・介護・福祉を統合した地域包括ケアシステムの構築などに尽力されました。その功績に対し、大橋町長から感謝状が贈呈されました。



住みよしみやぎづくりの功績をたたえて 佐々木利子氏に宮城県知事から表彰

4月5日(木)に、遠田警察署において、佐々木利子氏の地域における非行少年の善導と安全で安心なまちづくり活動に尽力され、心の通い合う住みよしみやぎづくりに貢献されてきた功績に対して、宮城県知事から住みよしみやぎづくり功績賞の伝達式が執り行われました。

佐々木氏は、地域活動母親クラブでの万引き防止マスコットづくりや10年間に及ぶ遠田地区少年補導員の活動など、遠田警察署と連携し取り組んでまいりました。



お花見前に104人が清掃ボランティア参加 涌谷町ボランティアの会で城山清掃

4月5日(木)に、城山公園において、涌谷町ボランティアの会が中心となり、桜まつりに訪れる観光客にきれいな城山公園を楽しんでもらえるようにと、清掃活動を実施。町民有志のほか、菊森建設工業やライオンズクラブ、共生の森、東北電力古川営業所の皆さんが加わり、総勢104人で涌谷大橋から城山公園野外ステージまで、ゴミ拾いや草取り、落ち葉・枯れ枝拾い、テングス病の枝の剪定などを行いました。



やさしいことばが、おくすりです

杉の子学童で認知症サポーター養成講座

3月26日(月)に、杉の子学童クラブにおいて、涌谷町として初めての小学生を対象とした「認知症サポーター養成講座」を実施しました。

この日は、「おっぴさんのことを知ろう!」・「認知症について知ろう!」・「自分でできることを考えてみよう!」と、3つのポイントを学習。

「おっぴさんのことを知ろう!」では、老いるということは、身体機能の低下など具体的な例を挙げながら学びつつ、「認知症」については、ボールとカゴを使った模型によって記憶が失われていく様子を体験しながら、DVDや寸劇で認知症の人への正しい対応の仕方を意識付けしていきました。

認知症の人に、厳しい言葉をぶついたり、急かしたり、心を傷つけることで、認知症は進行してしまうというまとめから、大切なキーワードとして「やさしいことばが、おくすり」をまとめとして覚えました。

受講した児童には、「認知症サポーター養成講座」の受講の証として、「オレンジリング」と「受講証書」が贈呈されました。

学んだことを忘れずに実践していただき、認知症になっても安心して暮らせる町の実現に協力をお願いします。



宮城県内外から医師や医療・介護従事者30人が参加 口から食べる幸せを守るための講習会

3月18日(日)に、涌谷町町民医療福祉センターを会場に、NPO法人「口から食べる幸せを守る会」の皆さんによる医療・介護に従事する人たちを対象とした講習会を開催。

NPO法人「口から食べる幸せを守る会」は、口から食べる機能の低下した人に対し、どのようにしたら食べさせられるか全国各地で講習会を開催しています。口から食べることの大切さについての普及・啓発活動に加えより高い知識・技術を持った人の育成を図り、食べたいと願う患者、食べさせたいと願う家族の想いが叶えられる社会を目指し活動している団体です。

今回も、口から食事や水分をとれなくなっている人に口から食べられるようになってもらうための技術を習得しようと、大勢の受講者が集まりました。

講座は、座学の講義の後、参加者同士で実際の器具や食べ物・飲み物を使って、どのようにしたら安全に食べさせられるのかを実践していきました。なお、今回の講習には、NHK総合「プロフェッショナル～仕事の流儀～」などにも出演したことがある理事長の小山珠美氏がお越しになられ、指導してくださいました。

参加者は、一人一人が真剣にうなずきながらメモをとり納得している様子で、一つ一つの動作を確認しつつ、現場で即実践できる技術を習得していきました。



わくわくパラダイスを開催

3月26日(月)に、涌谷町町民医療福祉センター集団検診室で、わくわくパラダイスを開催しました。

お店屋さん遊びでは、引換券でお買い物体験。パン屋さんや花屋さん、風船屋さんなど、小学生がするお店屋さんで楽しくお買い物をしました。ゲームコーナーは、輪投げやおかしすくい、魚釣りがありスタンプラリーにも。お買い物後は、紙芝居や手遊び、風呂敷パルーン遊びなど盛りだくさんの会になりました。また、中学生のスマイル応援隊(土日・長期休暇中のイベントボランティア)が事前から当日まで協力してくれました。ありがとうございました。



こちら-町長コラム-
町長室です

安全で安心できる食事のために！

緑が目まぶしい季節になりました。あまりにも早い桜の開花に追われるような桜まつり。今年もボランティアの会、東北電力の方々の手できれいにお化粧した城山公園。まつり会場は大勢の人々を楽しませ、国土交通省のおかげできれいになった江合川河川敷が花を添えてくれました。

そして、田には、田植機が緑のじゅうたんを敷いてくれています。秋にはおいしいお米が穂ります。

今、お米は主食用米と餌米が栽培されています。餌米は主食用米との生産量のバランスをとるために作られています。餌米は家畜へ与えられ、牛肉、豚肉、卵、牛乳となり私たちに食事を楽しませてくれています。

私たちが、安全で栄養豊かなおいしい食事を求めるように、家畜もきっと私たちのように要求しているように思います。もちろんしゃべることができるわけではありませんが、肉、卵、牛乳といった生産物に結果が出てくるように思います。結果的に私たちの食事に跳ねかえってくることになるでしょう。

栄養価、生産量、食の安全につながるようになるでしょう。牛、豚、鶏たちも安全で安心できる餌を食べ、おいしい肉、卵、牛乳を食べてもらいたいと思っています。とすれば、主食用米と同様な餌米づくりをする必要があると思いますが、考えてみませんか？

涌谷町長 大橋信夫

【町長日程(平成30年3月15日~4月14日)】

日程	行事名	場所
19	十文字学園女子大学学位記授与式	新座市十文字学園
20	涌谷第一小学校卒業式	涌谷第一小学校
21	涌谷クロスカントリー	わくや天平の湯
22	涌谷南幼稚園修了式	涌谷南幼稚園
22	春の交通安全運動推進会議	役場大会議室
29	世界農業遺産推進協議会	大崎市図書館
30	退職辞令交付式	役場・医療福祉センター
2	辞令交付式	役場・医療福祉センター
1	涌谷高校卒業式	涌谷高校
4	さくらんぼこども園入園式	さくらんぼこども園
9	入学式	筥白小・涌谷中学校
10	涌谷第一小学校入学式	涌谷第一小学校
10	韓国総領事お見送り	仙台空港
12	図書館オープニングセレモニー	涌谷公民館
13	関係省庁挨拶回り	

しろやま さん
城山の金さん徒然日記

時が過ぎても変わらぬ風景

筥岳白山小学校となって2回目の入学式を迎えたこの春。その前身となる旧小里小学校と旧筥岳小学校の校舎にも春が訪れておった。

旧小里小学校では、南側の門のところにある枝垂桜が、桜のカーテンを作り出しておった。

旧筥岳小学校では、筥岳山を背にした校舎を引き立てるかのように、ソメイヨシノが満開に咲き誇っておった。それぞれの時代ごとに、多くの児童にとっての思い出の風景だったことじやろう。

しかし、この風景は、時が経っても大きくその姿を変えることはないんじゃないやろうなと思った春じゃった。



(写真)上は小里小学校、下は筥岳小学校。どちらも満開じゃった。

大石田町地域おこし協力隊 × 涌谷町地域おこし協力隊 連携企画



4月7日(土)8日(日)の2日間、涌谷町の友好交流の町・山形県大石田町の観光交流拠点「KOE no KURA」を会場に、両町の地域おこし協力隊の連携事業「わくやキッチン」を開催。

大石田町を中心に、山形県の皆さんは、涌谷町の桜まつりや食の魅力を伝えてまいりました。



わくわくの 食

大石田町のそば粉や自然薯などと、涌谷町のおぼろ豆腐や小ねぎ、金のいぶきなどの特産品を使ったメニューを涌谷町の丹治隊員が考案し提供。



- ①「わくや御膳」：金のいぶきのごはんと郷土料理おぼろ汁、金のいぶきの甘麴を使った豚の角煮、三角揚げやおぼろ豆腐の小鉢、友好トッピングの大石田町の自然薯とろろ
- ②「絆ピザ」：生地にはそば粉と金のいぶきの米粉を使用し、具材も両町の小ねぎやぺそら漬けといった特産品をハーフアンドハーフでのせたピザ



わくわくの 観光

涌谷町の四季の風景や行事をまとめたパネルや涌谷町の金の歴史にかかわる展示物、つるしびななどで、涌谷町の観光について、山形県の皆さんにPR。



- ③春夏秋冬毎に、風景や行事を1枚にまとめたパネルとつるしびな、観光写真コンテスト入賞作品を2階のギャラリースペースに展示
- ④涌谷町の日本初の産金地の歴史と東大寺との関係、涌谷町産ブランド米として作付けを強化している「金のいぶき」の実物などを展示



わくわく求めて涌谷に縁のお客さまが来店

大石田町地域おこし協力隊による告知や事前・当日のマスコミ報道によって、初日63人・2日目73人が来店。初日は、現在山形市在住で、かつて涌谷町猪岡短台に住んでいたという方が、開店前からお越しいただき、ふるさと涌谷の味を堪能していただきました。

連日とも大盛況で、涌谷町と大石田町の食の共演に舌鼓を打っていただいたお客さんからは、本イベントの定期的な開催を求める声も多数寄せられました。

浦谷町への移住定住を検討している人に！移住定住補助事業が充実！

わくや新生活応援補助事業

▶問い合わせ先 まちづくり推進課まちづくり推進班 ☎0229-43-2119

これまでの補助メニューを充実させ、新たなメニューを追加し「わくや新生活応援補助事業」として、予算の範囲内で補助します。

親戚や知人で浦谷町に移住を考えている人にご紹介ください。ご自身が対象となるかどうかなど気軽にお

問い合わせください。

各個別の補助メニューで共通となる対象者および条件は、世帯を構成する全ての人が浦谷町以外からの転入者であることと、浦谷町に定住の意思があること、町税などの滞納がないこと、暴力団員でないことです。

メニュー2

浦谷町移住促進住宅取得補助事業・浦谷町住宅取得助成事業

▶補助額：最大60万円

▷住宅取得分・・・上限20万円

①住宅本体に要する建築費・購入費（付帯工事費と土地代金は除く）

②中古住宅の修繕費（居住に必要な修繕に限る）

上記①②の10%とし、上限20万円

▷子育て世代加算・・・上限20万円

①義務教育以下の子ども（妊娠中も含む）が1人以上含まれていること

②第1子は10万円加算、第2子はさらに5万円加算、第3

子以降は5万円加算

▷町内建築業加算・・・上限20万円

①新築20万円 ②中古住宅リフォーム10万円

▶対象・条件

【浦谷町移住促進住宅取得補助事業の場合】
住宅を取得し、転入後1年を経過していないこと

【浦谷町住宅取得助成事業の場合】

浦谷町内に転入してから1年以上5年未満民間賃貸住宅に居住していた世帯で、町内に住宅を取得してから1年未満の世帯



メニュー3

浦谷町結婚新生活支援事業（このメニューは、転入者以外でも該当します）

▶補助額：最大30万円

①婚姻を機に住宅を購入した費用

②婚姻を機に必要なリフォーム費用

③賃貸した住宅にかかわる賃料、礼金、共益費、仲介手数料の費用（勤務先からの住宅手当を除く）

④引越費用（引越業者に支払った分のみ）

上記①～④の合算で算出（上限30万円）

▶対象・条件

▷平成30年1月1日から平成31年3月31日までの間に婚姻届を提出し、受理された世帯

▷浦谷町内に居住していること

▷申請時夫婦の住民票が対象住居にあること

▷公的制度による家賃補助を受けていないこと

▷浦谷町民間賃貸住宅家賃助成事業との併用可



メニュー4

浦谷町民間賃貸住宅家賃助成事業

▶家賃補助金：最大1万5千円（月額）

▷家賃補助：上限1万円

①対象家賃の1/2以内（勤務先から住宅手当・駐車場代は除く）②最長24カ月

▷子育て世帯加算

①1件につき5千円②義務教育以下の子ども（妊娠中も含む）が1人以上含まれていること

▶対象・条件

▷浦谷町内に平成30年1月1日以降に転入し、民間賃貸住宅（家賃月額4万円以上）に入居する世帯（単身世帯を除く）

▷公営住宅等は除く

▷浦谷町結婚新生活支援事業との併用可